

三井住友建設株式会社 2023年3月期 第2四半期 決算説明会
主な質疑応答

2023年3月期 第2四半期 決算について

Q 大型建築工事で追加の損失が発生したとの事だが、昨年度損失を計上した際に見込んでいた物価上昇影響をうまく価格転嫁できなかったということか。また他工事における物価上昇の価格転嫁の現状を伺いたい。

A 当該工事は規模も大きく、また工種も多岐に渡っており、協力業者と発注額を確定していく段階で、昨今の物価上昇を織り込まざるを得なかった事が採算悪化の約半分の要因。また大型工事で施工難易度も高く、実際に施工していく中で計画の見直しや、想定外の費用が発生する見込みとなったもの。

一般的な物価上昇の影響については、発注者と粘り強い交渉を行っているが、全てを価格転嫁する事は難しく、価格転嫁出来ているのはおおよそ半分程度。物価上昇に伴う損益影響については今回の業績予想に織り込んでいる。

Q 今回工事損失引当金を計上した大型建築工事について今後の損失リスクを伺いたい。また他社において海外の需要が回復しているという話を聞くが、御社における海外の受注環境はどうか。また海外での物価上昇リスクを伺いたい。

A 大型建築工事において現時点で見込める原価は全て織り込んでいるが、大規模で施工難易度も非常に高いため、今回の採算悪化と同様の施工計画の変更や、更なる物価上昇となった場合、追加の損失計上の可能性は否定出来ない。

海外の市況について、国により回復度合いに差があるものの、全体的にコロナ禍から回復基調にあるとの認識。世界的な物価上昇については、影響を受けている工事もあるものの限定的。また海外のODAについては物価スライド（エスカレーション条項）で対応出来ている。

Q 損失を計上した大型建築工事における施工計画の変更は、昨年度時点の見込みとどういった部分が違ったのか。

A 当該工事については、当社が経験した事がない程の難工事であり、工程上、最も難度の高い部分を施工していく過程で想定外の事象が起こった事が一番大きな要因。今後の工程において、一定のサイクル通り進捗していけばリスクは低下していくものと考えている。

以上